

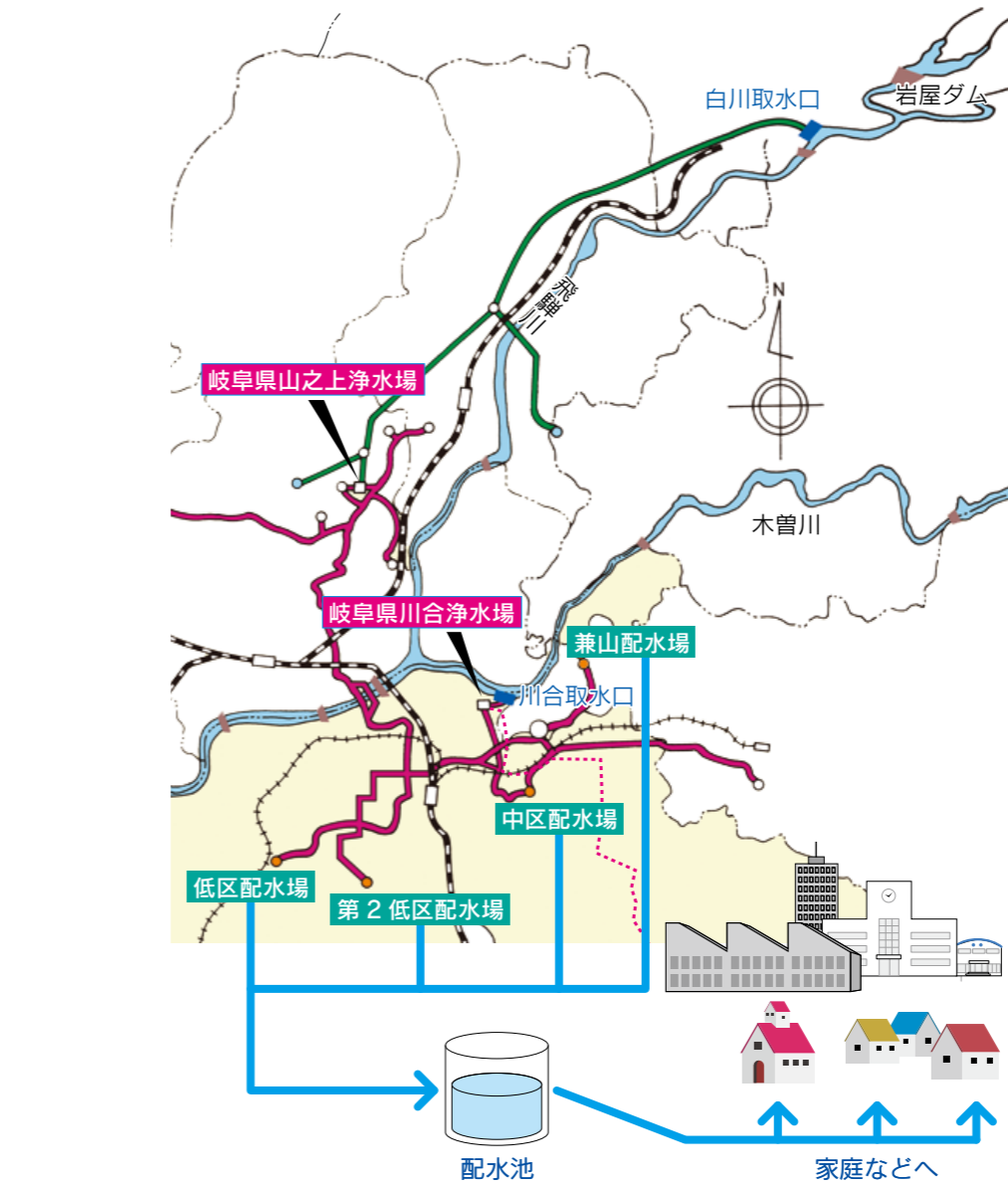


6月1日～7日は水道週間

おいしいな だいじなお水 ごくごくり

安全でおいしい水道水。
可児市の水道水がどのようにして私たちに届いているのか、
また災害時への備えがどうなっているのかを紹介します。

「おいしいな だいじなお水 ごくごくり」は
第56回水道週間のスローガンです。



水道水が家庭に届くまで

ダム→浄水場
私たちが飲んでいる水の水源は、岩屋ダム(下呂市)で、飛騨川の白川取水口(加茂郡白川町)と木曾川の川合取水口で取水しています。白川町で取水した水は山之上浄水場(美濃加茂市)で、川合で取水した水は川合浄水場できれいにしています。

浄水場→配水場
浄水場では安全な水をつくり、法律に基づき51項目の検査による水質検査を行います。浄水場できれいにした水は、市内4カ所の配水場に送られます。

県の水を購入

配水場→配水池
可児市は多くの団地が丘陵地にあるため、一度配水場から各地にある配水池に水を送ります。

配水池→家庭へ
配水池から配水管を通して、皆さんのもとへ水が届けられます。

水は県から買っています

県は、岩屋ダムなどを作るために多くのお金を使い、水利権を得て、水を確保しています。その際に借り入れたお金の返済や施設の維持管理、耐震化など安全に水を届けるための整備に多くの費用がかかっています。

市は水利権を持っていないことから、皆さんに安定的に水道水を供給するために県から水を購入しています。この費用が水道事業経営の大きな負担となっています。

しかし、こうした状況の中でも、南海トラフ地震などの地震災害に備えるため、水道施設の耐震化に加え、古くなった管路の更新も進めていかなければなりません。

施設の耐震化計画

市は地震による被害を軽減するため、平成24年度に水道施設の耐震化計画を策定し、耐震管への布設替えや配水池などの構造物の補強を計画的に進めています。これらの耐震化により、地震災害による被害を受けても、給水機能を可能な限り保持できるようにし、断水を最小限にとめるようしていきます。

今年度は耐震性能に劣る配水池やポンプ場の耐震補強を行います。基幹管路(送水管、配水本管)についても順次布設替えを行い、耐震化を図ります。また県では広域的な防災・減災対策として、東濃地域と可茂地域をつなぐ「東濃西部送水幹線(緊急時連絡管)」



耐震管布設替工事

災害時に備えて

配水池などには約3万m³の水を蓄えることが可能で、大きな地震などにより各家庭の水が出なくなった際には給水所を開設して水の配布を行います。

しかし、地震などの災害時には、各家庭での備蓄も大切です。飲料水などの家庭備蓄は、従来1人1日3リットルを3日分が目安とされてきましたが、昨年5月、政府が設けた専門家などによる検討会の「南海トラフ巨大地震対策」最終報告書で、1週間分以上確保する必要があるとされましたので、十分な備蓄をお願いします。

なお飲料水などの備蓄には、水道水の汲み置きも有効です。清潔で蓋がでる容器に口元まで水を入れて、空気が入らないように蓋をして直射日光の当たらない涼しい場所で保管してください。

ただし、汲み置きをすると徐々に塩素がなくなり、殺菌作用がなくなりま

すので、保存期間は夏場は3日間、冬場で1週間程度が目安となります。



給水車給水訓練の様子

水は大切な資源

水は、蛇口をひねれば当たり前のように出てきますが、私たちの生活に欠かせない、とても大切なものです。これからも皆さんが安心して飲める水道水を安定して送り続けます。

ご存じですか?

こんなに安い! 水道水

500ml ペットボトル
飲料水 1本
およそ 150 円

市の水道水500ml
およそ **9銭**※

※口径13mmで1カ月あたり20m³使用した場合の料金3,434円から算出

こんなに長い! 水道管

市の水道管の長さはおよそ **667km**

↓どれくらいの長さ?

市から、東なら宮城県、西なら山口県までの距離と同じくらいの長さです。



水道のことをもっと知ろう!

川合浄水場など上下水道施設見学ツアーを開催

市内在住の小中学生と保護者を対象に、施設見学ツアーを開催します。詳しい内容については、広報かに6月15日号でお知らせします。

問合せ 水道課、上下水道料金課